

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【国語】

書名 項目	新しい国語		2 東書
内容	＜児童が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか＞		
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年「知りたいことを聞き出そう」ではインタビューの学習と一緒に「敬語」について学習することで、敬語の必然性を感じながら学習をするための工夫がされている。 ・単元の始めのページで問題提示がされていること、学習の流れが明確に示されていること、見通しを持って学習を進めることができるような工夫がされている。 ・単元ごとにどのような言語活動を通して「言葉の力」を身につけるのかが示されている。3つのステップで単元の目標を達成できるように構成されている。 	
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の思考を広げ深める工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を使おう」では二次元コードを読み取ると、練習問題がついていて、児童が自ら学習に取り組んだり、習った漢字をすぐに復習したりすることができるようになっている。 ・単元の終わりに「学習で使う言葉」が取り上げられていて、意味をすぐ確認することができ、その言葉を活用できるように構成されている。 ・単元全体が3ステップに分けられ、読み取る視点、考える視点が明確になり考えが深まる工夫がされている。 	
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生「プラスチック問題について考えよう」や「発信しよう、私たちのSDGs」のように身近な話題が掲載されている。 ・2年生以上の教科書には「未来を生きる君へ」が掲載されている。言葉の大切さなどが書かれており、子供たちが生活を豊かにする態度につながる。 ・単元で何を学び、どんな力をつけるのか、各単元に「言葉の力」という名称で示されている。また、「言葉の力」がロードマップとして示されている。 ・「言葉の力」と「振り返る」が近くに書かれており、学習でどのような力がついたのかが実感しやすい。 ・単元に合った書籍が掲載されている。 	
	＜教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか＞		
<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・「振り返る」「言葉の力」の後に「生かそう」があり、他教科の学習でも国語科で学んだことが生かせる工夫がある。 ・「情報のとびら」があり、情報を扱う際に大切なことが示されている。 ・6年生では、インターネットリテラシーを育む教材が掲載されている。 		
その他	<p>＜資料の構成・配列や表記・表現＞</p> <p>○児童が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上には「国語ノートの作り方」「デジタルノートの作り方」が示されている。 ・巻頭の「ノートの作り方」には鉛筆のフォントで例文が示されている。 ・多くの単元に二次元コードがあり、豊富な資料となっている。 ・写真や絵が大きく掲載されている。 <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年では読みやすさに考慮して、語のまとまりを捉えやすくなるように文節ごとに分かち書きが用いられ、語のまとまりを意識した適切な位置で改行している。 		

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【国語】

項目	書名 ひろがる言葉 小学国語	17 教出
内容	<p>＜児童が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか＞</p>	
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で特に何について学ぶのかが、「ここが大事」に示されている。 ・物語文、説明文の後の「見通しをもとう」では、構造と内容の把握、精査解釈、考えの形成、共有の4つのステップで学習を進めていけるようになっているため学習の見通しがもてるようになっている。 ・とびらのページは短くシンプルな問いかけだけとなっているので、児童の想像力を膨らませ、内容に進むことができるようになっている。
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の思考を広げ深める工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終わりに教材に出てきた言葉を取り上げ、児童に考えさせたり、似ている言葉を集めさせたりし、教材を通して語彙を増やすことができるようになっている。 ・物語の作品中に出てくる表現に着目させている。 ・多様な言語活動を扱っており、他者との対話の中で学びを深められるようになっている。
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元で学習したことが、学校生活など実生活のどの場面で活用できるのかが示されている。 ・各単元の最後にある「ここが大事」では、単元の学習のまとめや他教科につながることを示されている。 ・学校図書館の活用を図るページや図書紹介を中心とした交流読書のページがあり、日常生活において活発に読書を行うことができるようになっている。
	<p>＜教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか＞</p>	
<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉を増やそう」を通して他教科でも活用できる工夫がされている。 ・巻頭に各単元で学習したことが実生活のどの場面で活かせるかが示されている。 	
その他	<p>＜資料の構成・配列や表記・表現＞</p> <p>○児童が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字や書く学習において、鉛筆書きのフォントで示されている。 ・教科書の表紙のデザインが色鮮やかで物語のような世界が描かれている。 ・二次元コードでは単元に関連した動画等が見られる。 ・1年生下「はたらくじどう車」では、挿絵ではなく、自動車の写真が掲載されている。 <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生上の教科書では子供の想像力を刺激するイラストが掲載されており、子供の言葉を引き出す工夫がされている。 ・全学年分冊により、巻末の資料や付録等が5年生では80ページ、6年生では84ページと、豊富な資料が掲載されている。 	

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【国語】

書名 項目	小学校 国語		38 光村
内容	<児童が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか>		
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫	・「見通しを持つ」とあり、児童に見通しを持たせやすい工夫がされている。 ・学習に見通しが持てるように「問い」と「目標」という項目で、明確に書かれている。児童一人一人が問いを立て、見通しを持って学ぶことができるような工夫がされている。 ・巻頭に「どうやって学んでいくのかな」が掲載されており、基本的な学習方法や困ったら見返すと良い内容が掲載されている。	
	○「思考の深まり」 ・児童自身の思考を広げ深める工夫	・学び合いが多く掲載されていて、他者を意識しながら取り組む工夫がされている。 ・読む、書く、話す、聞くの領域の単元で、話し合い、質問などのやり取り、書いたものの読み合いなど他者と協働して学ぶ活動がある。 ・「言葉の宝箱」では、人物、事物、心情を表す言葉に分けて記載されている。	
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫	・「たいせつ」では単元で身につけたい国語の力をまとめて示している。 ・学習のポイントが下段に示されていて、学習を進める工夫がある。 ・各章の終わりに「ふりかえろう」が設定されており、学習の達成状況や学び方を児童自身が振り返ることができるようになっている。また「つなぐ」が設定されており、生活等に活かせる工夫がされている。 ・4年下「理由とともにまとめましょう」では文例の掲載があり、書くことを苦手とする児童への配慮がされている。	
	<教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか>		
○「教科等横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点	・情報を整理する方法の例示があり、情報を整理して解決する方法がいつでも見られる。 ・巻末に「図を使って考えよう」が掲載されている。 ・三年上「こんな係がクラスにほしい」が掲載されていて、他教科でも活かすことができる工夫がされている。		
その他	<資料の構成・配列や表記・表現> ○児童が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 ・ひらがな表に補助線が引かれている。 ・SFのような物語、外国を舞台にした物語、哲学的な物語があり児童の心が動かされるような教材が掲載されている。 ○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達の段階からどのような工夫が見られるか。 ・物語、古典、話すなど多くの単元に二次元コードがあり、動画や音声などを見聞きすることができ、児童の助けとなっている。		